

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1175300241		
法人名	株式会社 あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4丁目51-5		
自己評価作成日	令和 4年 1月 16日	評価結果市町村受理日	令和 4年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4年 2月 16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・コロナ禍の中でも、入居者様が楽しめるようにレクリエーションを充実させる取り組みを実施  
 ソーシャルディスタンスを確保しながら、キッチンカーや訪問バン屋を招致し活用している  
 ・施設の花壇で野菜や季節の花を入居者様と一緒に育てている。  
 ・音楽療法を感染対策を講じながら実施。音楽の力を活用し、入居者様の心身の充実を図っている  
 ・ご家族との繋がりを大切に、意識しながら取り組んでいる  
 コロナ禍の中、面会を制限させて頂いているが、入居者様と直接会えない不安を感じるご家族も多い。  
 今まで以上に、電話や毎月のお手紙を活用し、入居者様の様子を伝え、施設の取り組みや入居者様の様子が分かるよう、InstagramといったSNSを活用し発信している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

コロナ禍で、利用者の家族から「コロナは大丈夫ですか」や「面会ができないので、心配だ」の声が多くあり、その声に応え、SNSアカウントを開設した。家族から承認を得た利用者の日常や活動の様子を公開している。家族から「今までの写真と違う表情を見る事が出来た。」と喜ばれている。職員も動画を撮ることで、家族に安心してもらうことの大切さを意識するようになった。その他に電話で日々の様子を伝えたり、3ヶ月に1回、介護計画書の見直し時に、家族から要望を確認する等、面会に制限がある中でも、できる事を行っている。個別支援に関しては、個々の人生史を作成し、各時代背景を知ることから、利用者の思いを把握し、支援につなげられたらと考えている。また音楽療法ではパーソナルソングを活用し、心身の充実にも努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、ホームの理念と目標を唱和し、業務に入っている。	法人理念を基に事業所では、「利用者の心に添った介護」をすることを目標としている。職員が利用者の対応に悩むことがあると、カンファレンスの時や研修を通し、色々な視点から支援に活かしている。	事業所の目標である「利用者の心に寄り添った介護」を更に深め、利用者の役割作りを職員全体で進めることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、車での移動販売が来たり、キッチンカーが来て購入している。	コロナ禍前は、自治会の行事参加やボランティアの受け入れを行っていたが、今は中止している。移動スーパーが週1回あり、その時は、近隣の方も集まってきて、利用者で交流しながら買い物ができる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやSNSなどを利用し、施設の取り組み、行事などで楽しく過ごしている様子を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、職員に報告して、ケアに活かせるよう努めている。	コロナ禍前は、行政、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族代表の参加の下、開催していたが、今年度は1回開催し、あとは書面開催としている。行事や入退院、事故やクレーム等を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。市担当者と日頃から相談などし、アドバイスを頂きケアに活かすよう取り組んでいる。	行政に直接運営推進会議の資料を持参する他、事故報告の相談をしたり、アドバイスを貰う等、連携をとっている。年1回、市主催で介護と医療職との交流会があり、多職種との交流が勉強になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士が随時話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は、ユニットフロアから死角となる場所にある為、入居者の安全を考え施錠している。	厚生省やグループホーム協議会等の資料を使用し、身体拘束についての研修会を定期的で開催している。研修後は報告書を記入し、振り返りを行っている。その他、認知症についての勉強会を年2回実施し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や社内勉強会に参加し、職員間で情報共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、それらを必要とする入居者へ活用している。また、個々の関係者と話し合いし、最善となる支援ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に内容を細かく説明し、質問があればいつでも対応できるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け中止している。利用者や家族等の意見は、電話や面会時など随時お聞きし、それらを運営に反映させるよう努めている。	コロナ禍で、家族面会に制限あり、意見等を聴く機会は少なくなっている。電話で日々の様子を伝えと、コロナの心配の声が多くあり、SNSアカウントを開設し、利用者の日常の様子を見れるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回代表者会議、2ヶ月に1回全体会議を設け、係活動や本社委員会など取り組みについて、情報共有する場を設けている。また、職員の提案などは随時に聞き、反映できるように努めている。	職員から日常の業務の中でその都度、話を聴くようにしている。遅番の定時退社ができないと言う意見に対し、始まりを調整し、18:30の退社時間を19:00に変更した。夜勤者の負担軽減にも繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、各拠点の施設長会議を実施している(現在はリモートで実施)各施設の施設長と本社間で情報共有し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修について、勉強会や事例発表を行っている。勉強会の内容については、職員にアンケートを実施し決定している。外部研修について、全員がいずれの研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所と一緒に、市主催作品展に参加していたが、現在はコロナ感染症拡大を受け中止となっている。地域密着型サービス事業所連絡部会や、ケアマネ会に参加し、他事業所と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や、本人から話を伺い、困っている事や要望を把握できるよう努めている。また、そこから本人が安心できる環境や関係作りを築けるよう、職員間で情報共有しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所して頂いたときや、電話連絡の際に、本人の様子をご家族へ伝え安心して頂けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族それぞれの想いを受け止めて、その人に合ったサービスができるよう考え、実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のそれまで生きてきた人生史を大切に考え、その人が出来ることを見極め、家事などにこだわらず「役割」を持っていただき、その人が安心して生活できる環境づくりが提供できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡可能と伝えている。また、医療面の相談を随時家族としている。入居者のちょっとした変化や、日頃のさりげない様子をお伝えし、職員と家族がとともに支えていると感じて頂ける関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に馴染みの場所などをお聞きし、必要であれば職員も付き添い、その場所へ行けるよう支援している。	コロナ禍前は、家族と自宅やお墓参りに外出したり、友人の面会があったが、中止としている。窓越しでの家族面会や、年賀状の手伝い、電話等、今できることで関係継続が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや音楽療法、行事などで入居者同士が会話できるよう声かけしたり、関わり合える環境を作ったりしながら、お互いに支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に訪問できるよう声かけしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に合ったケアが出来るよう、その人らしさを大切にすることを心掛けている。困難な場合は、ご家族にも伺っている。	個々の人生史を作成している。各時代背景を知ることから、利用者の思いを把握し、支援に繋げることができたらと考えている。言葉で表現が難しい人に対し、その人の好きな音楽で効果を得ることができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過について把握し、今までの暮らし方をなるべく変えずに生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスなどで、変化について把握し、その時々にあった支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の要望を聞き、生活全般の手助けが出来るように努めている。	入居時に作成した暫定の介護計画は1週間程度、利用者の様子を見ながら、変更を行っている。計画書は利用者個々の生活に応じ、排泄や趣味活動や精神面に合わせ現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と普段の何気ない会話や動作、行動などを見逃さず、申し送りや記録などで、他の職員と情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合せ、日常生活動作などの手助けを支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染状況により、地域の人たちとの交流を控えている。地域の人たちが気軽に施設に立ち寄れるように、移動スーパーへ場所を提供したり、キッチンカーを招致したりし、地域とのつながりを持つ取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、訪問診療を受けている。受診・通院が必要な時は、家族了承のもと、提携病院へ通院介助を行っている。	月2回の訪問診療医が、利用者全員の主治医となっている。ホームに看護師が勤務し、日常の健康管理をしている。発熱等の緊急時対応の時は、看護師と連絡を取り、看護師や医師から指示を貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は、相談しながら、日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や面会時に相談し、情報交流している。往診時や、電話などで入院している様子などを把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を組み、家族・かかりつけ医、施設側と話し合い、方針を共有できるよう努めている。	入居時に重度化や終末期の指針の説明をしている。延命や、緊急時対応、又は看取りについて、家族に確認をしながらその都度、話し合いをして進めている。勉強会は看護師を中心に、研修は法人の資料やオンライン配信を使用し実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習・勉強会を行い、急変時の対応に備えている。管轄消防署の協力のもと、AED講習会を開催し参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交え、毎月1回様々な訓練を行っている。運営推進会議を通して、自治会の協力をお願いしている。	年2回、消防署の立ち合いの下で避難訓練を行う他、毎月1回、地震、台風、竜巻、不審者等、色々な状況を想定し、訓練をおこなっている。火災では、火の下を変えて訓練をしている。備蓄品の準備もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保しつつ、一人一人の心に寄り添った言葉かけや対応をしている	書類は鍵付き書庫に保管し、パソコンはパスワード管理で限られた人のみが使用している。介護記録や介護計画等、支援に必要な書類は各ユニットで所定の場所で保管し、利用者の目に触れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの押し付けではなく、利用者の意思を尊重した対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションや会話を大切に、毎日の暮らしを不安なく過ごしてい頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、整髪や髭剃りなどを支援し、清潔で健やかな生活を過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の趣向を把握して、無理のない食事を楽しめるように支援している	利用者は食器洗いや食器拭き、テーブル拭きに参加し、食事を楽しみにしている。行事では、お寿司やウナギ等、利用者の希望の物を取り入れた。調理レクリエーションでは利用者と一緒にカレーを作り喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日々の健康維持のため、栄養摂取を考えて、バランスよく食事していただける支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔にすることは、健康維持につながる為、一人ひとりに合った口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、スタッフ同士が話し合いをしたうえで声かけを行い、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェック表で、個々のパターンを把握し、声かけをしている。トイレで排泄をしているうち、徐々に失禁が減り、リハビリパンツや布の下着になっている。夜間帯は個々に合わせた方法で支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関して、常に気に掛けているが、飲食物の工夫や適度な運動への声かけといった取り組みが実施できていない。今後、便秘予防に向け、飲食物の工夫し、自然な排泄に向けた取り組みを行う予定。(ごぼう茶の提供など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミング、状態に応じてケアができるよう、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	週2回、温かい時間帯に入浴時間を設けている。浴室の入り口には、「ゆ」と書いた暖簾を下げ、銭湯に行く雰囲気を出したり、季節のゆず湯や菖蒲湯、又は入浴剤を桶に入れ香を楽しむ等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々と場合に応じて休息したり、生活習慣に沿って静養できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、用法、用量などを理解したうえで服薬介助を実施し、服薬前後の様子を観察し、変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の過去の趣味や特技、生活歴を知り、楽しみや興味あることなどを取り入れたレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿った場所へ出かけたいが、コロナ禍の為実施できていない。年末年始にご家族と外出した利用者もいた。(以前は、宿泊も可能としていた)	コロナ禍前は、一人ひとりの希望に応じ、スーパーやホームセンター等に買い物に行ったり、家族と旅行に行くことも自由におこなっていたが、今は密を避け、朝の散歩程度になっている。初詣とお花見は実施し、利用者に喜ばれた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいないので、ホームで一括管理しているが、本人や家族の希望などに応じて、お金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の許可があり、本人の希望があればかけて頂いている。毎年、年賀状を書ける方には書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の物を飾ったり、壁には利用者の写真や作品を飾っている。居間兼食堂には、利用者と一緒に制作した作品や季節の物を飾っている。	共有空間は、利用者と一緒に作った季節の作品を飾り、季節感を表している。コロナ感染予防として、食卓は3名が座り、前面に仕切りを立てる他、二酸化炭素濃度が1000ppmを超えると警報音が鳴り、換気をする仕組みを整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の日の当たる場所にソファを置き、好きな時間に思い思いに過ごして頂きけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの私物を持参して頂き、居心地よく過ごして頂けるように配慮している。	馴染みの物を持参してもらいたいが、最近は新しい家具や物品を持ち込む人が多くなっている。落ち着かない人に対しては、馴染みの物をお願いし、配置は以前暮らしていた動線になるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合った支援を行い、安心して生活できるような環境作りを心掛けている。廊下には手すりが設置され、床はバリアフリーになっている。居室の扉には、見えやすい所に表札をつけている。		